

日本時間生物学会学術大会を終えて

海老原 史樹文

名古屋大学農学部動物機能制御

第2回日本時間生物学会学術大会会長

さる11月7日～8日、名古屋大学において第2回日本時間生物学会学術大会が開かれた。周知のように、本学会は、生物リズム研究会と臨床時間生物研究会が融合して誕生したもので、一昨年（2017年）の東京での設立記念大会の成功に見られるように、本学会に対しては大きな期待が寄せられている。本大会を引き受けるに当たり、その期待に答えられるかいささか心配ではあったが、学術大会を実質的な研究討論の場にするのがわたくしに与えられた責務と感じ大会会長をお引き受けした。

時間生物学会は御承知のように極めて学際的な集団で、原核生物からヒトに至るあらゆる生物を対象として、様々な方法論・技術を用いて研究が行われている。植物の生物リズムからヒトの精神疾患に至るまで従来の学問区分では捉えきれない幅広い研究が行なわれている。このような従来の学問領域を縦断するような新たな学問体系を創出していくことは重要なことであるが、一方で、それぞれの従来の学問領域の枠にとらわれた考え方や進め方が根強く存在することも事実である。時間生物学会においても、その母体である基礎研究を中心におく生物リズム研究会と治療を目的とする臨床時間生物研究会からの会員では医学系と基礎科学系に区分される考え方の違いが感じられる。学会や大会のあり方についてのそれぞれの考え方の違い、また、専門用語の違いなど学会を今後発展させていくうえで解決してゆかねばならない課題は多い。本学会を企画するに当たり、これらの問題を含め、どのようにしたら基

礎と臨床研究をうまく融合させることが出来るかがわたくしにとってのテーマであった。ポスター発表を取り入れ、出来るだけお互いの研究が理解できるように配慮し、また、口頭発表についても、基礎系と臨床系の発表を同一会場で行ったのもそのためである。基礎と臨床系に共通するテーマとしてシンポジウムでメラトニンを取り上げ、基礎研究から臨床への展開をテーマにかかげたのもこのような考え方に基づくものである。幸いに、このシンポジウムには多くの聴衆が参加し盛会に終わった。また、翌日の中日新聞でもシンポジウムの内容が取り上げられた。今回は、メラトニンという共通項をテーマにすることが出来たが、臨床と基礎系の両者に興味のあるテーマを設定することはなかなか大変であるというのが実感である。

さて、学会当日は朝早くから多くの参加者が詰めかけ、合計して204名の参加者（登録者数は230名）があった。学会員の総数からみても、この数字はかなり高い出席率であり、本学会への期待を感じさせるものがあった。発表演題は口頭発表43題（基礎系21題、臨床系22題）、ポスター発表43題（基礎系28題、臨床系15題）の合計86題であった。この他に、シンポジウム5題と特別講演がこれに加わった。これだけの内容を、2日間でこなすのは実際大変で、口頭発表の時間を短くして何とか収めることが出来た。しかし、そのために十分な発表と討論の時間を取ることができず、この点については今後検討を要すると感じた。この他にも検討すべき点が幾つか感じられた。今

後大会をスムーズに運営し、発展させていくために検討していくべき事柄と思われるので参考までに書きとめておきたい。一つは抄録とプロシーディングについてである。今回は、前回の方法を踏襲し、抄録集のみにしたが、英文の大会プロシーディングを作り、何らかのメディアを通じて世界に公表すべきではないだろうか。本学会を国際的に認知させるためにもこのことは大切なことと思われる。また、抄録の記載について今回も制約を設けなかったが、抄録の用紙を含めた記載方法の統一を考えたほうが良いようにも思われた。二つ目は、大会の企画についてである。本大会では、大会事務局で一切の企画を行ったが、開かれた学会にするためにも一般会員からの意見を大会の企画に反映できるようにする必要があるのではないだろうか。例えば、シンポジウムのテーマを公募するのも一案である。そのためには、学会として

それに対応できるような体制を組んでおく必要があるだろう。最後に学会の情報化の必要性を感じた。コンピューターネットワークを利用し、一般会員からの意見、提案などを吸い上げ、会員相互の意見交換ができる組織作りが時間生物学発展のために必要であろう。時間生物学会のホームページを作り、学会参加登録をはじめ会員からの意見の吸い上げ、さらにインターネットを介して学会情報を世界へ発信することを検討すべき時期に来ているように思われる。

以上、大会を終えての感想を思いつくままに書きとめた。本大会を開催するに当たり、多くの企業からご援助をいただいた。また、学会のプログラム作りから運営に至るまで多くの学生諸君の協力を得た。これらの支援がなければ学会を成功に導くことが出来なかったであろう。あらためてここに感謝申し上げる。



第3回日本時間生物学会学術大会

－時計遺伝子から時間治療まで－への御案内

1. 会 期： 平成8年11月14日（木）15日（金）
2. 会 場： 甲府市総合市民会館（〒400甲府市青沼三丁目5番44号）
3. 事 務 局： 大会会長：田村 康二
事務局長：西川 圭一
連絡先：〒409-38山梨県中巨摩郡玉穂町下河東1110番地
山梨医科大学第二内科 気付
電話：0552-73-1111(内線2310), FAX：0552-73-6749
E-mail：ktamura@res.yamanashi-med.ac.jp

特別講演： Michael H. Smolensky, Ph.D.
Director, Herman Chronobiology, Center
Professor, University of Texas-Houston School
of Public Health
Title: "Medical Chronobiology and Chronotherapeutics
in 1966 and beyond"

シンポジウム：時計遺伝子から時間治療まで

司会者 高橋清久（国立精神神経センター）

時計遺伝子の転写制御	石田直理夫（工業技術院）
視交叉上核の分子学	篠原一之（横浜市大）
勤務交代とリズム	本橋 豊（秋田大）
睡眠異常とリズム	石束嘉和（山梨医大）
高血圧の時間治療	井尻 裕（山梨医大）

その他 教育講演等が計画されています。

以上の予定で本会を鋭意準備致しております。できるだけ多数の御参加をお待ちしております。

SECOND INTERNATIONAL SYMPOSIUM OF
CHRONOBIOLOGY AND CHRONOMEDICINE
(2nd ISCC) YA'AN, China, Sept 7-12,1996

Dear Colleagues,

On behalf of the Organising Committee of the 2nd ISCC, I welcome you to YA'AN and invite your participation in the 2nd ISCC to be held in West China University of Medical Sciences, at YA'AN, Sichuan, China in Sept 7-12,1996.

The Theme of this Symposium is Recent Advances in Chronobiology and Chronomedicine in the world. We are proud of the contributions to chronobiology by scientists in our part of the world. I am convinced that we cannot possibly succeed in our task unless you come to present your own work, and join in the discussions on problems that we face as scientists in this region.

A document issued by Sichuan Provincial Foreign Affairs Office which will only help you obtain a visa to China, Will be mailed by this Office.

I am confident that you will find the scientific program stimulating.

I look forward to meeting you in Sept 1996

Zhennan Xue, M. D.
President of
Organising Committee

UNDER THE AUSPICES OF

Chinese Organising Society of Chronobiology and Chronomedicine

International Society of Chronobiology

ARRANGED BY

West China University of Medical Sciences

シンポジウムに関するその他の書類は事務局にありますので、興味のある方はご連絡下さい。

Eight Annual Meeting
Society for Light Treatment and Biological Rhythms

June 2-4, 1996
Washington D.C.

SLTBR 10200 West 44th Street, Suite 304, Wheat Ridge,
CO 80033-2840

Fax: 303-422-8894
Phone: 303-424-3697

Deadline for receipt of Abstract Submission Forms: April 22, 1996

Sunday, June 2, 1996

CME Course: "The Practice and Science of Light Therapy and
Melatonin"

Monday, June 3 - Tuesday, June 4, 1996

Annual Meeting

